

# Excel 活用



## 目次

<b>1. ミスを少なく、効率よく入力する.....</b>	<b>1</b>
入力ミスは、どこで発生するか .....	1
VLOOKUP 関数.....	2
VLOOKUP 関数を設定する .....	2
VLOOKUP 関数をコピーする .....	6
効率よく入力する（入力規則の設定） .....	8
<b>2. 単純集計表を「情報」として活用する.....</b>	<b>11</b>
一覧表・テーブルのデータを活用する.....	11
ピボットテーブルの作成 .....	11
ピボットグラフの作成 .....	16



本書では、次の環境を基準に説明しています。

- OS : Windows 8.1 Update
- アプリケーション : Office 2013 Professional Plus

画面など、予告なく変更される場合があります。

また、本書の著作権は日本マイクロソフト株式会社が保有しています。本書に掲載されたもの、およびデータは、著作権法上、個人で使用する以外、無断で複製、複写、転載、再配布することを禁じられています。

Microsoft、Windows、Office、Word、Excel、Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。本書中に登場するアプリケーション名などは一般に各メーカーの登録商標です。本書には©、®、TM マークは明記しておりません。

## 1. ミスを少なく、効率よく入力する

### ▶ 入力ミスは、どこで発生するか

Excel で入力作業をするときに、元になる資料を見ながら入力することがあります。例えば「商品コード（商品 CD）」「商品名」「単価」が書かれた「商品台帳」を見ながら、その日の売上を入力するような場合、どうしても転記ミスが発生しやすくなります。

	A	B	C
1	商品CD	商品名	単価
2	1021	ベンジャミナ(中)	¥4,000
3	1030	カボック(大)	¥4,300
4	1031	カボック(中)	¥3,900
5	1040	フェニックス(特大)	¥4,800
6	1041	フェニックス(大)	¥4,600
7	1042	フェニックス(中)	¥4,300
8	2010	ポトス(中)	¥1,500
9	2011	ポトス(小)	¥1,000
10	2020	パキラ(大)	¥2,000
11	2021	パキラ(中)	¥1,800
12	2022	パキラ(小)	¥1,300
13	2030	アスパラガス(中)	¥2,000
14	2031	アスパラガス(小)	¥1,600
15			

商品台帳を見ながら



	A	B	C	D	E	F
1	年月日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

都度で入力するとミスが増える

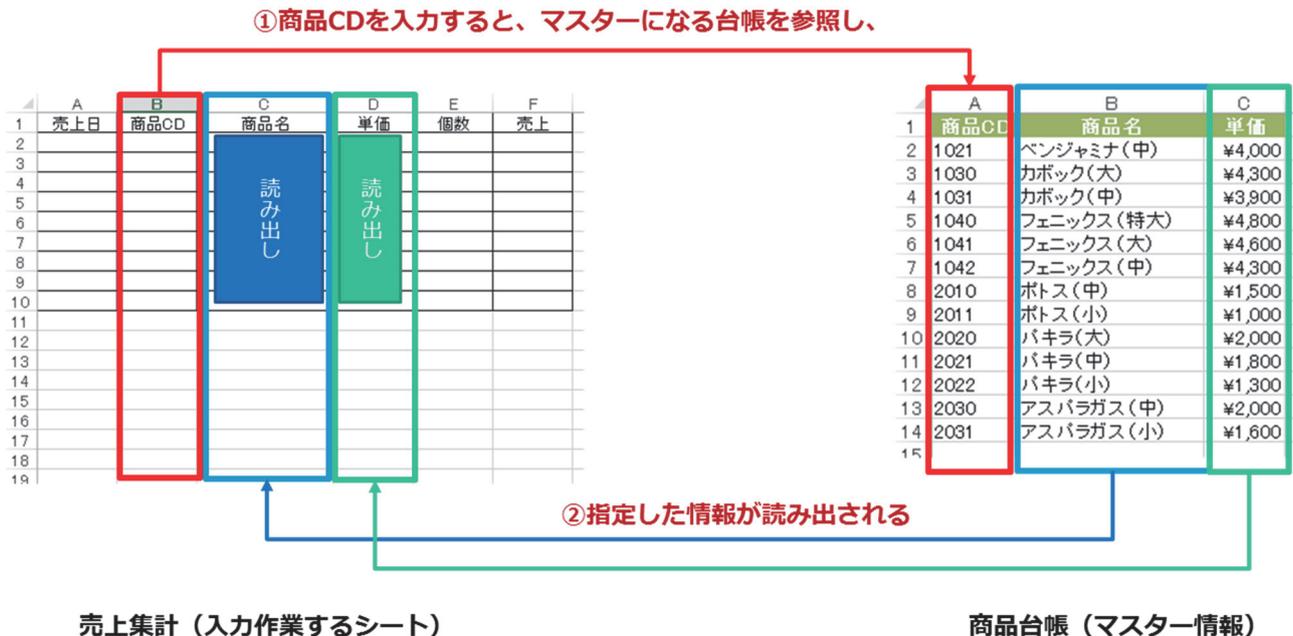


このようなミスを減らすためにはどのような工夫をすると良いか考えてみましょう。

## ▶ VLOOKUP 関数

「商品 CD」を入力すると、自動的に「商品名」「単価」が表示されるように設定できれば、転記ミスを減らすことができます。このような設定を実現するために使用するのが「VLOOKUP 関数（ヴイルックアップ関数）」です。

下図の場合、売上集計シート（左側）の B 列に商品 CD を入力することで、参照表である商品台帳（下図の右側）から C・D 列に情報が読み出されるようにできるため、ミスが減るだけでなく、入力時間の短縮にもなります。



## ▶ VLOOKUP 関数を設定する

VLOOKUP 関数は、情報を読み出して反映させたいセル（上図では、C・D 列のセル）に、以下のように記述します。

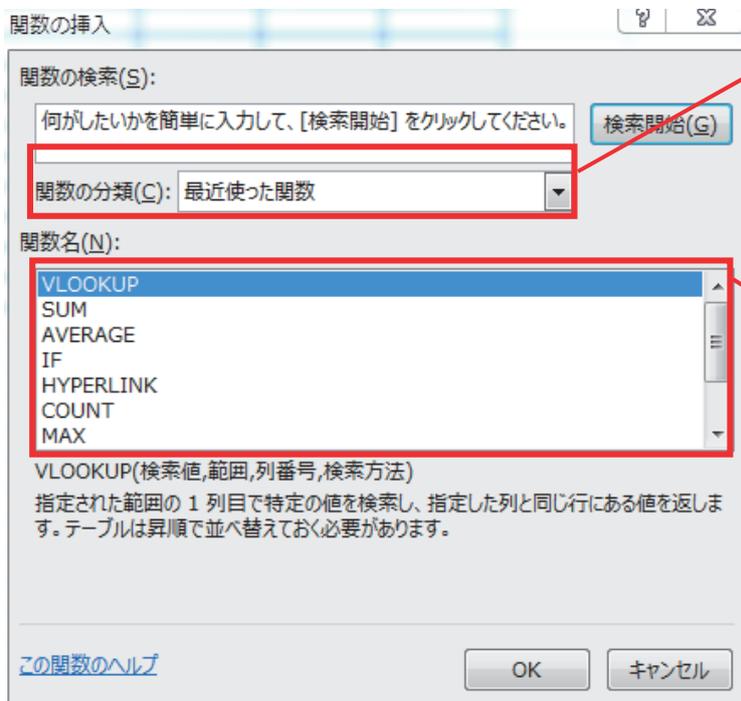
**=VLOOKUP（検索値,範囲,列位置,検索の型）**

検索値	検索する情報が入力されているセル
範囲	参照表の範囲
列番号	参照表から情報を呼び出す列番号（左から何列目の情報を読み出すか）
検索方法	「FALSE（または 0）」か「TRUE（または 1）」を入力するが省略することも可能。省略した場合は「TRUE」の扱いになる。入力ミスを無くす目的であれば、検索値と完全一致のときにだけ情報を読み出す「FALSE」を設定する

C 列に「商品名」が読み出されるようにするには、次ページのようにします。

① 「関数の挿入ダイアログボックス」を表示させ、「VLOOKUP」と検索する

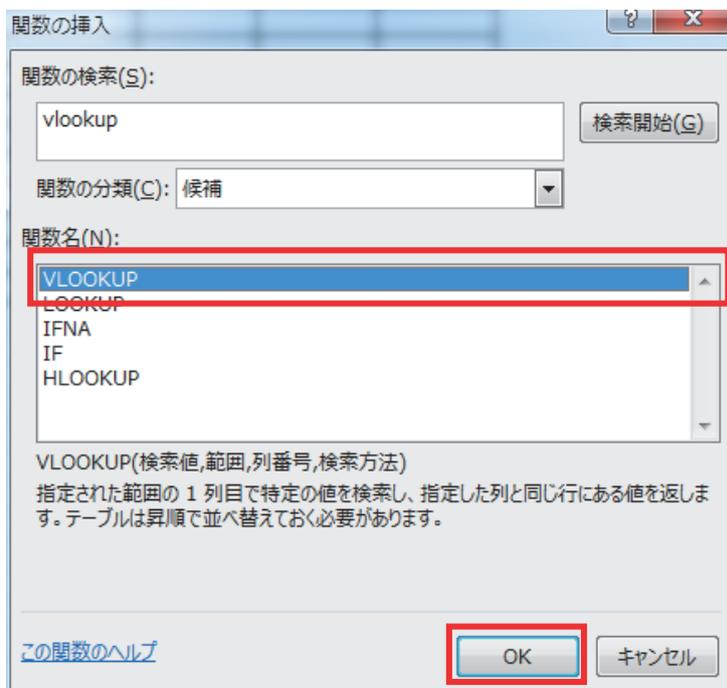
関数を設定したいセルを選択（ここでは C2 セル）し、数式バーの左横にある「fx」ボタンを押す。



ここに「VLOOKUP」と入力し、  
[検索開始] をクリック

ここに表示されていれば、  
ここからの選択でも OK です

② 「VLOOKUP」を選択して「OK」する



### ③ダイアログボックスに必要な情報を入力する

関数の引数

VLOOKUP

検索値 | = すべて

範囲 | = 数値

列番号 | = 数値

検索方法 | = 論理

=

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

検索値 には範囲の先頭列で検索する値を指定します。検索値には、値、セル参照、または文字列を指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

※ここでは、以下のように入力します。範囲指定ボタン  を使っても、手入力しても構いません。

検索値：B2

範囲：商品一覧!A2:C14

列番号：2

検索方法：FALSE

関数の引数

VLOOKUP

検索値 B2 = 0

範囲 商品一覧!A2:C14 = {1021,"ベンジャミナ (中)",4000;1...

列番号 2 = 2

検索方法 FALSE = FALSE

=

指定された範囲の 1 列目で特定の値を検索し、指定した列と同じ行にある値を返します。テーブルは昇順で並べ替えておく必要があります。

範囲 には目的のデータが含まれる文字列、数値、または論理値のテーブルを指定します。セル範囲の参照、またはセル範囲名を指定します。

数式の結果 =

[この関数のヘルプ\(H\)](#) OK キャンセル

入力できたら「OK」をします。

④B2セルに、商品CDの「1021」を入力します。

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	#N/A			
3						
4						

⑤B2セルへの入力をして確定すると、C2セルに商品名が表示されます

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	ベンジャミナ(中)			
3						
4						



同じように、D2セルに「単価」が読み出されるようにVLOOKUP関数を設定しましょう。

ただし、このワークでは、C2セル（商品名）の数式をコピーしてはいけません。



## 関数名と引数（ひきすう）

C2セルにVLOOKUP関数を設定したあと数式バーを確認すると以下のように入力されています。

「=VLOOKUP」までを「関数名」、「(B2,商品一覧!A2:C14,2,FALSE)」を、その関数の「引数」といいます。引数は関数によって設定すべき内容が異なり、引数の設定が間違っているとエラーとなります。

例えばA1セルからA10セルまでの合計をSUM関数で計算した場合には、「=SUM(A1:A10)」と表示されます。この場合、関数名は「SUM」、引数は「(A1:A10)」となります。

## ▶ VLOOKUP 関数をコピーする

C2・D2 に設定した VLOOKUP 関数を、それぞれ C・D 列すべてに設定しようとしたとき、単純にオートフィルをかけてもエラーとなってしまいます。

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	ベンジャミナ(中)	4000		
3		1021	#N/A	#N/A		
4			#N/A	#N/A		
5			#N/A	#N/A		
6			#N/A	#N/A		
7			#N/A	#N/A		
8			#N/A	#N/A		
9			#N/A	#N/A		
10			#N/A	#N/A		

これは、例えば C3 セルの数式バーの内容が以下のようにになっているためです。

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	ベンジャミナ(中)	4000		
3		1021	#N/A	#N/A		



なぜエラーになってしまうのか、引数の内容に注目して、原因を考えてみましょう。

VLOOKUP 関数を他のセルにもコピーする場合は、参照表（台帳やマスター）の範囲に対して、絶対参照を設定しておく必要があります。絶対参照を設定することで、オートフィルで関数をコピーしても参照先の範囲が固定されます。

C2 :    =VLOOKUP(B2,商品一覧!\$A\$2:\$C\$14,2,FALSE)

	A	B	C	D	E	F	G
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上	
2		1021	ベンジャミナ(中)	4000			

D2 :    =VLOOKUP(B2,商品一覧!\$A\$2:\$C\$14,3,FALSE)

	A	B	C	D	E	F	G
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上	
2		1021	ベンジャミナ(中)	4000			

## WORK

C2・D2セルに設定した VLOOKUP 関数の「範囲」に絶対参照を設定して下さい。

その後、売上集計シートの 11 行目までオートフィルでコピーをして、どの商品 CD を入力してもエラーが出ないことを確認して下さい。

### 完成例

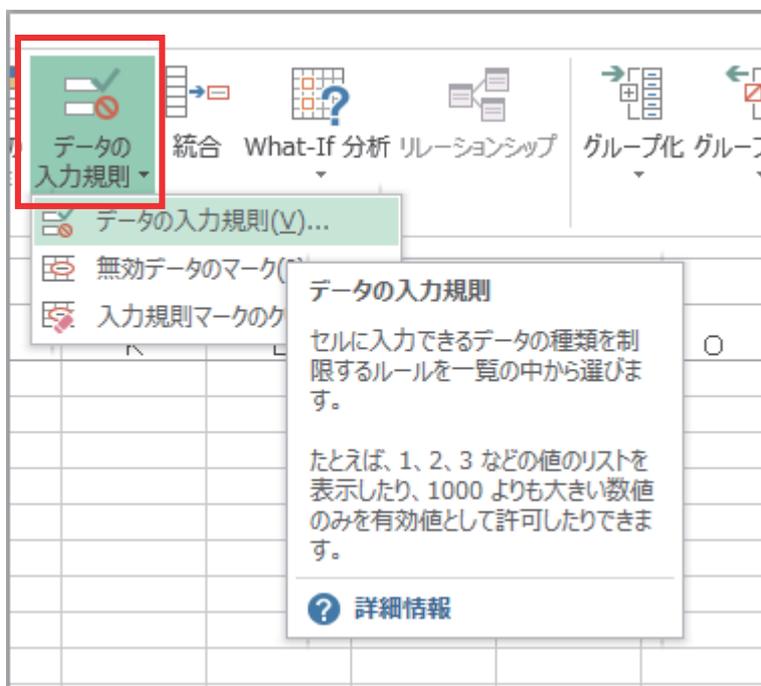
	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	ベンジャミナ(中)	4000		
3		1021	ベンジャミナ(中)	4000		
4		1040	フェニックス(特大)	4800		
5		2030	アスパラガス(中)	2000		
6		2021	パキラ(中)	1800		
7		2022	パキラ(小)	1300		
8		1042	フェニックス(中)	4300		
9		1021	ベンジャミナ(中)	4000		
10		2031	アスパラガス(小)	1600		
11		2021	パキラ(中)	1800		

## ▶ 効率よく入力する（入力規則の設定）

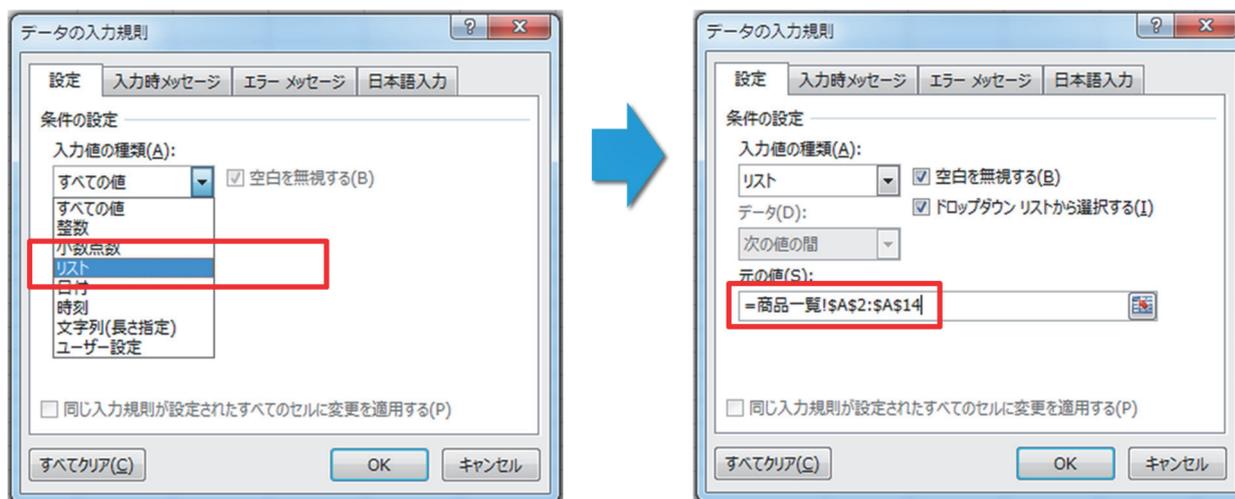
これで入力ミスが軽減されましたが、いちいち商品 CD を入力するのが面倒です。

商品 CD をリストから選択できる入力規則を設定してみましょう。

### ①入力規則を設定したいセル範囲を選択し、[データ] タブから [データの入力規則] を選択



### ②ダイアログボックスで「リスト」を選択し、リスト表示させる元情報の範囲を選択



これで入力規則が設定されました。意図した通りになっているかを確認しましょう。

リスト入力を設定したセルを選択すると、セル右側に、▼ ボタンが表示されます。

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2		1021	▼ ベンジャミナ (中)	4000		
3		1004	ベンジャミナ (中)	4000		

▼ ボタンを押すと、商品 CD をリストから選択できるようになります。

B	C
商品CD	商品名
1021	▼ ベンジャミナ (中)
1021	▲ ベンジャミナ (中)
1030	フェニックス (特大)
1031	アスパラガス (中)
1040	アスパラガス (小)
1041	キラ (中)
1042	キラ (小)
2010	フェニックス (中)
2011	ベンジャミナ (中)
2031	アスパラガス (小)

リストから商品 CD を切り替えて、連動して商品名・単価が切り替わることを確認できれば設定完了です。

## WORK

- ① 売上集計シートの商品 CD にリスト形式の入力規則を設定してください。
- ② 個数を入力すれば「売上」が計算されるように数式を設定して下さい
- ③ 売上日の表示を「長い日付形式」に変更し、任意の日付を入力して下さい
- ④ 表全体を見栄え良く編集して下さい

### 作成例

	A	B	C	D	E	F
1	売上日	商品CD	商品名	単価	個数	売上
2	2014年4月1日	1021	ベンジャミナ (中)	4000	1	¥ 4,000
3	2014年4月2日	1021	ベンジャミナ (中)	4000	2	¥ 8,000
4	2014年4月3日	1040	フェニックス (特大)	4800	3	¥ 14,400
5	2014年4月3日	2030	アスパラガス (中)	2000	4	¥ 8,000
6	2014年4月4日	2021	パキラ (中)	1800	5	¥ 9,000
7	2014年4月5日	2022	パキラ (小)	1300	6	¥ 7,800
8	2014年4月6日	1042	フェニックス (中)	4300	7	¥ 30,100
9	2014年4月7日	1021	ベンジャミナ (中)	4000	8	¥ 32,000
10	2014年4月8日	2031	アスパラガス (小)	1600	9	¥ 14,400
11	2014年4月9日	2021	パキラ (中)	1800	10	¥ 18,000

Excel の関数は何百種類もあり、全てを覚えることは現実的ではありません。わざわざ覚えなくても、SUM 関数のようにリボン操作で自然と関数を使っている場合もあります。

「どんな操作をしたいか」を考え、「データの数を数える」「条件で抽出する」のように検索するなどして調べ、実際に使っていくことで、特によく使う関数は自然と身についていきます。大切なのは、「いかに正確な結果を得るか」「いかに効率の良い操作をするか」を常に意識して、「こういうことはできないだろうか」と考え、調べ、試してみることです。パソコンの操作は取り消すことができますので、データのバックアップをとるなどしたうえで、さまざまな操作を試してみてください。

- 参考サイト例：マイクロソフトの Office に関する公式サイトの「サポート」 (<http://office.microsoft.com/ja->



<http://office.microsoft.com/ja-jp/support/?CTT=977>

調べたい製品を選択し、キーワードや質問文を入力します

## 2. 単純集計表を「情報」として活用する

### ▶ 一覧表・テーブルのデータを活用する

単なる一覧表を「テーブル」に変換することで、並べ替えや抽出、集計がスムーズとなりますが、あくまでも「使いやすい一覧表」です。これから学ぶ「ピボットテーブル」を使えるようになると、一覧表・テーブルを元データとして、さまざまな角度からデータを集計したり、整理したりできるようになります。

№	日付	商品名	単価	数量	金額	担当者
1	01月04日	ワインセット	5,250	130	682,500	村野
2	01月04日	焼酎結合せ	4,200	200	840,000	村野
3	01月04日	ビール結合せ	4,200	130	546,000	山崎
4	01月06日	和洋酒種	5,250	140	735,000	佐藤
5	01月06日	洋酒セット	3,150	40	126,000	佐藤
6	01月06日	カクテル6種	3,150	230	724,500	村野
7	01月06日	ビール結合せ	4,200	50	210,000	佐藤
8	01月06日	カクテル6種	3,150	220	693,000	山崎
9	01月07日	ビール結合せ	4,200	180	756,000	村野
10	01月08日	洋酒セット	3,150	150	472,500	佐藤
11	01月08日	カクテル6種	3,150	200	630,000	山崎
12	01月08日	和洋酒種	5,250	10	52,500	田中
13	01月09日	ビール結合せ	4,200	10	42,000	田中
14	01月09日	洋酒セット	3,150	200	630,000	山崎
15	01月10日	カクテル6種	3,150	50	157,500	田中
16	01月10日	和洋酒種	5,250	50	262,500	山崎
17	01月11日	ビール結合せ	4,200	300	1,260,000	山崎
18	01月11日	和洋酒種	5,250	300	1,575,000	山崎
19	01月13日	洋酒セット	3,150	150	472,500	山崎
20	01月14日	ワインセット	5,250	70	367,500	山崎
21	01月15日	焼酎結合せ	4,200	70	294,000	山崎
22	01月15日	洋酒セット	3,150	300	945,000	佐藤
23	01月15日	ビール結合せ	4,200	140	588,000	田中
24	01月16日	焼酎結合せ	4,200	130	546,000	田中
25	01月17日	洋酒セット	3,150	120	378,000	山崎
26	01月17日	ビール結合せ	4,200	140	588,000	田中
27	01月18日	洋酒セット	3,150	150	472,500	山崎
28	01月18日	焼酎結合せ	4,200	150	630,000	山崎
29	01月19日	洋酒セット	4,200	150	630,000	田中
30	01月19日	焼酎結合せ	4,200	140	588,000	田中
31	01月20日	洋酒セット	3,150	180	567,000	太田
32	01月20日	焼酎結合せ	4,200	150	630,000	山崎
33	01月20日	カクテル6種	3,150	150	472,500	山崎
34	01月20日	焼酎結合せ	4,200	160	672,000	山崎
35	01月21日	ビール結合せ	4,200	160	672,000	山崎
36	01月21日	ワインセット	5,250	140	735,000	田中

一覧表



№	日付	商品名	単価	数量	金額	担当者
1	01月04日	ワインセット	5,250	130	682,500	村野
2	01月04日	焼酎結合せ	4,200	200	840,000	村野
3	01月04日	ビール結合せ	4,200	130	546,000	山崎
4	01月06日	和洋酒種	5,250	140	735,000	佐藤
5	01月06日	洋酒セット	3,150	40	126,000	佐藤
6	01月06日	カクテル6種	3,150	230	724,500	村野
7	01月06日	ビール結合せ	4,200	50	210,000	佐藤
8	01月06日	カクテル6種	3,150	220	693,000	山崎
9	01月07日	ビール結合せ	4,200	180	756,000	村野
10	01月08日	洋酒セット	3,150	150	472,500	佐藤
11	01月08日	カクテル6種	3,150	200	630,000	山崎
12	01月08日	和洋酒種	5,250	10	52,500	田中
13	01月09日	ビール結合せ	4,200	10	42,000	田中
14	01月09日	洋酒セット	3,150	200	630,000	山崎
15	01月10日	カクテル6種	3,150	50	157,500	田中
16	01月10日	和洋酒種	5,250	50	262,500	山崎
17	01月11日	ビール結合せ	4,200	300	1,260,000	山崎
18	01月11日	和洋酒種	5,250	300	1,575,000	山崎
19	01月13日	洋酒セット	3,150	150	472,500	山崎
20	01月14日	ワインセット	5,250	70	367,500	山崎
21	01月15日	焼酎結合せ	4,200	70	294,000	山崎
22	01月15日	洋酒セット	3,150	300	945,000	佐藤
23	01月15日	ビール結合せ	4,200	140	588,000	田中
24	01月16日	焼酎結合せ	4,200	130	546,000	田中
25	01月17日	洋酒セット	3,150	120	378,000	山崎
26	01月17日	ビール結合せ	4,200	140	588,000	田中
27	01月18日	洋酒セット	3,150	150	472,500	山崎
28	01月18日	焼酎結合せ	4,200	150	630,000	山崎
29	01月19日	洋酒セット	4,200	150	630,000	田中
30	01月19日	焼酎結合せ	4,200	140	588,000	田中
31	01月20日	洋酒セット	3,150	180	567,000	太田
32	01月20日	焼酎結合せ	4,200	150	630,000	山崎
33	01月20日	カクテル6種	3,150	150	472,500	山崎
34	01月20日	焼酎結合せ	4,200	160	672,000	山崎
35	01月21日	ビール結合せ	4,200	160	672,000	山崎
36	01月21日	ワインセット	5,250	140	735,000	田中

テーブル



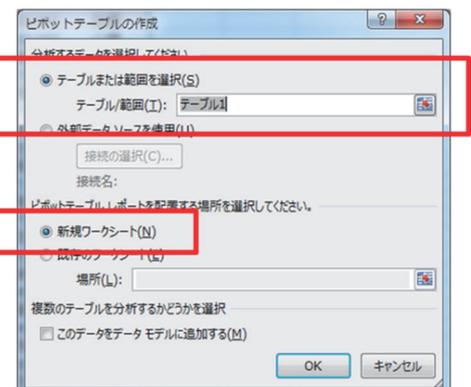
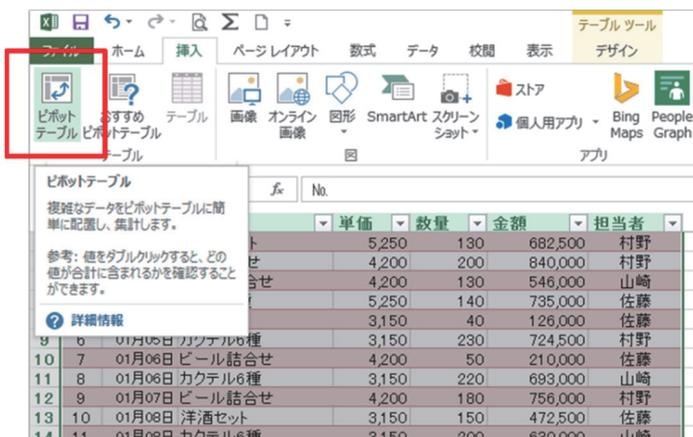
合計 / 金額	列ラベル	カクテル6種	ビール結合せ	ワインセット	焼酎結合せ
1月		3433500	5292000	4777500	3525000
	雲山	472500	2562000	367500	29
	佐藤		210000		67
	山崎	1323000	546000		84
	村野	1039500	756000	682500	172
	太田			2310000	79
	田中	598500	1218000	1417500	67
2月		1764000	2814000	3360000	2225000
	雲山	1134000	1470000		168
	佐藤		672000		67
	山崎	630000	672000	840000	75
	村野			1207500	231
	太田				168
	田中				21
3月		2646000	3906000	5785500	4200000
	雲山	693000	1680000	1312500	231
	佐藤	1008000	672000		1680000
	山崎				5250000
	村野	945000	1260000		168
	太田			840000	4305000
	田中			588000	1837500
合計		7843500	12012000	13923000	9950000

ピボットテーブル

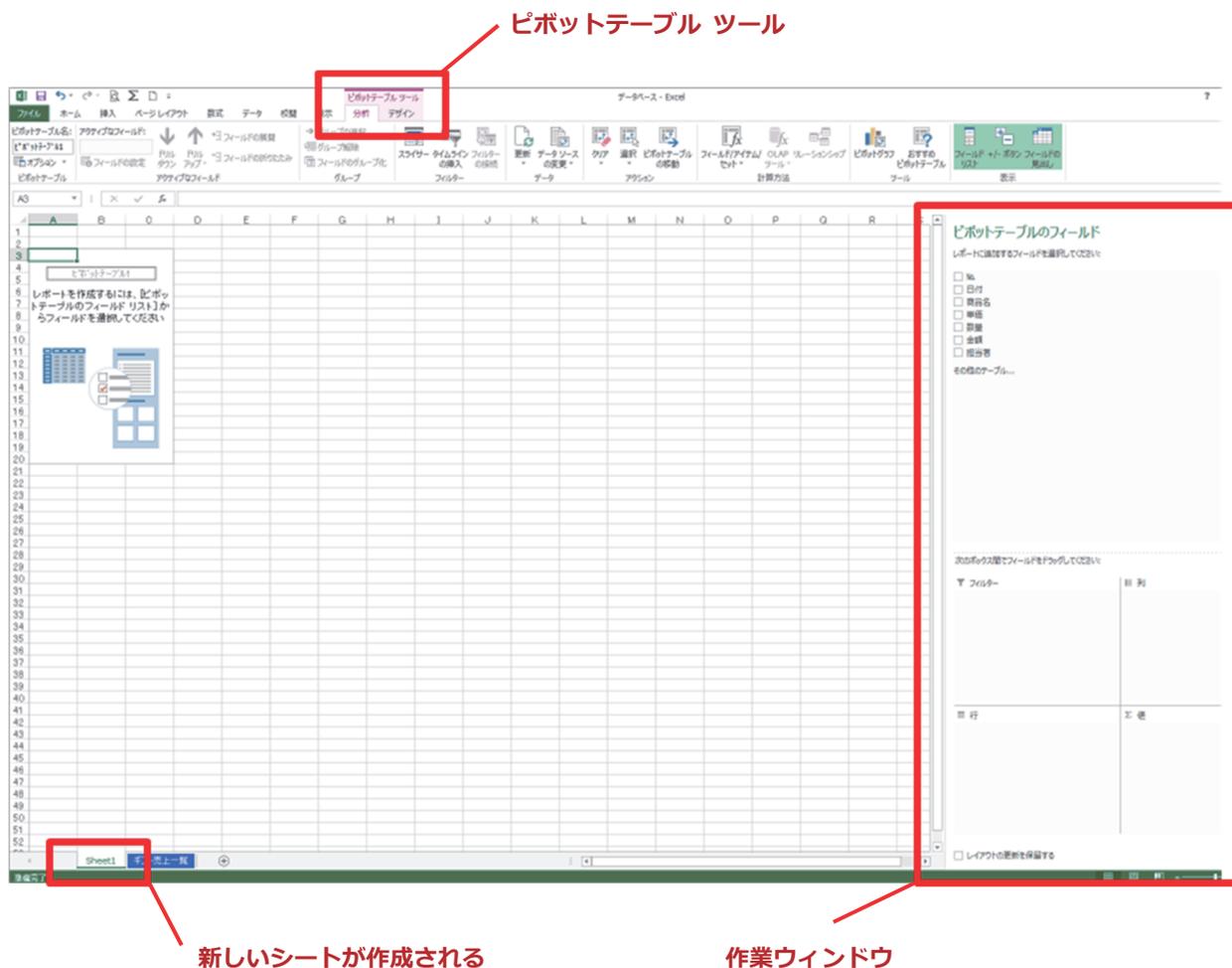
### ▶ ピボットテーブルの作成

ピボットテーブルとピボットグラフは以下の手順で作成します。

- ① 一覧表をテーブルに変換しておく（しなくてもいいが、した方が便利）
- ② ピボットテーブルの元となるテーブルを選択し、リボン [挿入] タブから [ピボットテーブル] を選択する  
ダイアログボックスで選択範囲を確認し、新規ワークシートを選択して「OK」する



- ③新しいシートが自動作成され、ピボットテーブル作成用の作業ウィンドウが表示され、  
タブに【ピボットテーブル ツール】も表示される



作業ウィンドウと作成させるピボットテーブルの位置関係をおさえておきましょう。  
行ラベル、列ラベルの組み合わせで、さまざまな情報を得られます。

次のボックスでフィールドをドラッグしてください:

▼ フィルター

日 列  
日付

列ラベル

行 行  
担当者

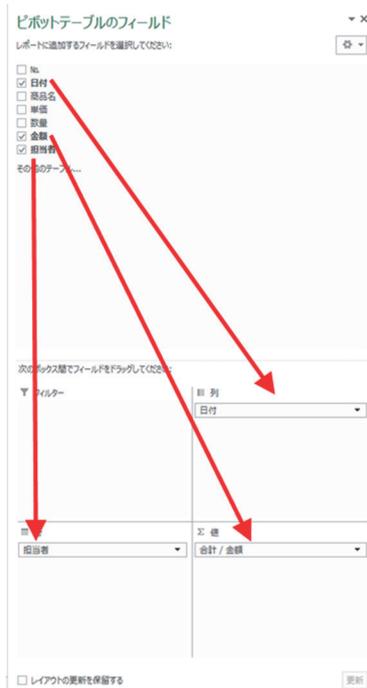
行ラベル

値  
合計 / 金額

値

	列ラベル	01月04日	01月05日	01月06日	01月07日
行ラベル	香山		861000	210000	
佐藤		546000		693000	
村野		1522500	724500		756000
太田					
田中					
総計		2068500	1585500	903000	756000

③フィールドリストから、行ラベル・列ラベルに項目をドラッグする



項目をドラッグすることによって表ができていく。

	A	B	C	D	E
1					
2					
3	合計 / 金額	列ラベル			
4	行ラベル	01月04日	01月05日	01月06日	01月07日
5	香山		861000	210000	
6	佐藤	546000			693000
7	山崎	1522500	724500		
8	村野				756000
9	太田				
10	田中				
11	総計	2068500	1585500	903000	756000
12					

④ほしい情報を見やすいように編集する

【編集例①】日付ごとでは見づらいので、「月」ごとに「グループ化」をする。

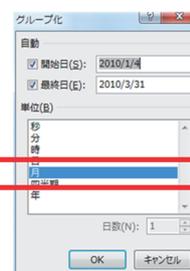
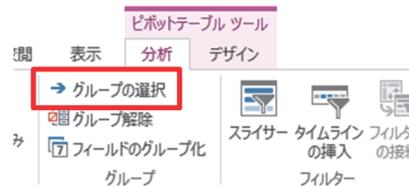
2	合計 / 金額	列ラベル					
3	行ラベル	01月04日	01月05日	01月06日	01月07日	01月08日	01月09日
4	香山		861000	210000		472500	
5	佐藤	546000			693000	630000	630000
6	山崎	1522500	724500			756000	
7	村野						94500
8	太田						4200
9	田中						
10	総計	2068500	1585500	903000	756000	1102500	724500
11							4200



列が月単位にまとまり、見やすくなる。

	合計 / 金額	列ラベル			
3	行ラベル	1月	2月	3月	総計
5	香山	6594000	5953500	7675500	20223000
6	佐藤	2488500	3507000	4021500	10017000
7	山崎	3171000	3727500	2184000	9082500
8	村野	4420500	1963500	1596000	7980000
9	太田	3927000	840000	4315500	9082500
10	田中	6058500	1023750	3108000	10190250
11	総計	26659500	17015250	22900500	66575250

日ごとでは細かすぎるので、月単位にグループ化する。  
→どこか日付のセルを選択し、「グループの選択」。



単位を選択。ここでは「月」に。

【編集例②】 行ラベルを重ねて、「誰が、何を売ったか」が分かるようにする

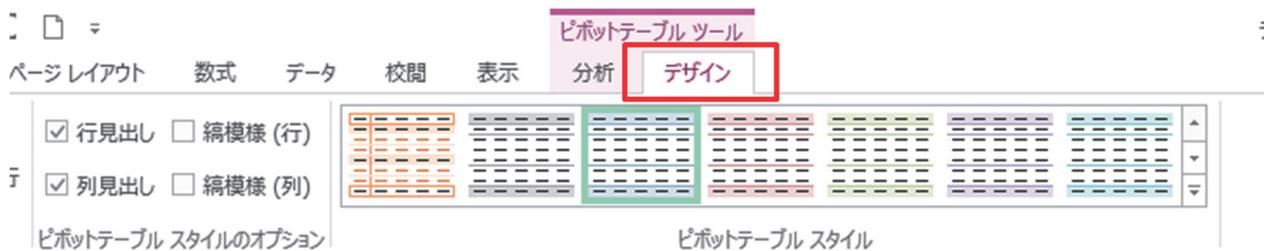


ピボットテーブルの行ラベルにも「商品名」が追加される。追加された項目ごとに「値」も自動集計される。

→ 「誰が」「何を」売ったかが分かりやすくなる。

合計 / 金額	列ラベル			総計
行ラベル	1月	2月	3月	
<b>香山</b>	<b>6594000</b>	<b>5953500</b>	<b>7675500</b>	<b>20223000</b>
カクテル6種	472500	1134000	693000	2299500
ビール詰合せ	2562000	1470000	1680000	5712000
ワインセット	367500		1312500	1680000
焼酎詰合せ	294000	798000	2310000	3402000
洋酒セット	1323000	504000		1827000
利き酒3種	1575000	2047500	1680000	5302500
<b>佐藤</b>	<b>2488500</b>	<b>3507000</b>	<b>4021500</b>	<b>10017000</b>
カクテル6種			1008000	1008000
ビール詰合せ	210000	672000	672000	1554000
ワインセット		1312500		1312500
洋酒セット	1543500	472500	819000	2835000
利き酒3種	735000	1050000	1522500	3307500
<b>山崎</b>	<b>3171000</b>	<b>3727500</b>	<b>2184000</b>	<b>9082500</b>
カクテル6種	1323000	630000		1953000
ビール詰合せ	546000	672000		1218000
ワインセット		840000	1680000	2520000
焼酎詰合せ	672000	672000		1344000
洋酒セット	620000	612500	504000	2022500

⑤見栄えよく編集する（[ピボットテーブル ツール] の [デザイン] タブを使用）



合計 / 金額	列ラベル			総計
行ラベル	1月	2月	3月	
<b>香山</b>	<b>6594000</b>	<b>5953500</b>	<b>7675500</b>	<b>20223000</b>
カクテル6種	472500	1134000	693000	2299500
ビール詰合せ	2562000	1470000	1680000	5712000
ワインセット	367500		1312500	1680000
焼酎詰合せ	294000	798000	2310000	3402000
洋酒セット	1323000	504000		1827000
利き酒3種	1575000	2047500	1680000	5302500
<b>佐藤</b>	<b>2488500</b>	<b>3507000</b>	<b>4021500</b>	<b>10017000</b>
カクテル6種			1008000	1008000
ビール詰合せ	210000	672000	672000	1554000
ワインセット		1312500		1312500
洋酒セット	1543500	472500	819000	2835000



選択したデザインに合わせて変更される。TPOやコーポレートカラーなどに合わせて選ぶと良い。

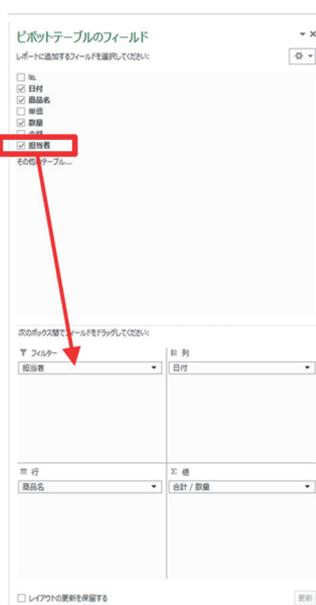
使用データ「データベース」をもとに、下例のように、「何月に、どの商品を、誰が、いくつ売ったか」が判断できるピボットテーブルを作成して下さい。

2					
3	合計 / 数量	列ラベル			
4	行ラベル	1月	2月	3月	総計
5	カクテル6種	1090	560	840	2490
6	香山	150	360	220	730
7	佐藤			320	320
8	山崎	420	200		620
9	村野	330		300	630
10	田中	190			190
11	ビール詰合せ	1260	670	930	2860
12	香山	610	350	400	1360
13	佐藤	50	160	160	370
14	山崎	130	160		290
15	村野	180		30	210
16	太田			200	200
17	田中	290		140	430
18	ワインセット	910	640	1102	2652
19	香山	70	250	200	520

## SKILLUP

### フィルターの活用

「フィルター」に項目を追加することで、ピボットテーブルの情報を抽出することができます。



A1・B1セルにフィルター項目が追加される。  
 情報を確認したい担当者を選ぶと、  
 ピボットテーブルの内容が担当者ごとに再集計される。

	A	B	C	D	E
1	担当者	(すべて)			
2					
3	合計 / 数量	列ラベル			
4	行ラベル	1月	2月	3月	総計
5	カクテル6種	1090	560	840	2490
6	ビール詰合せ	1260	670	930	2860
7	ワインセット	910	640	1102	2652
8	焼酎詰合せ	840	530	1000	2370
9	洋酒セット	1390	925	570	2885
10	利き酒3種	1000	750	870	2620
11	総計	6490	4075	5312	15877
12					

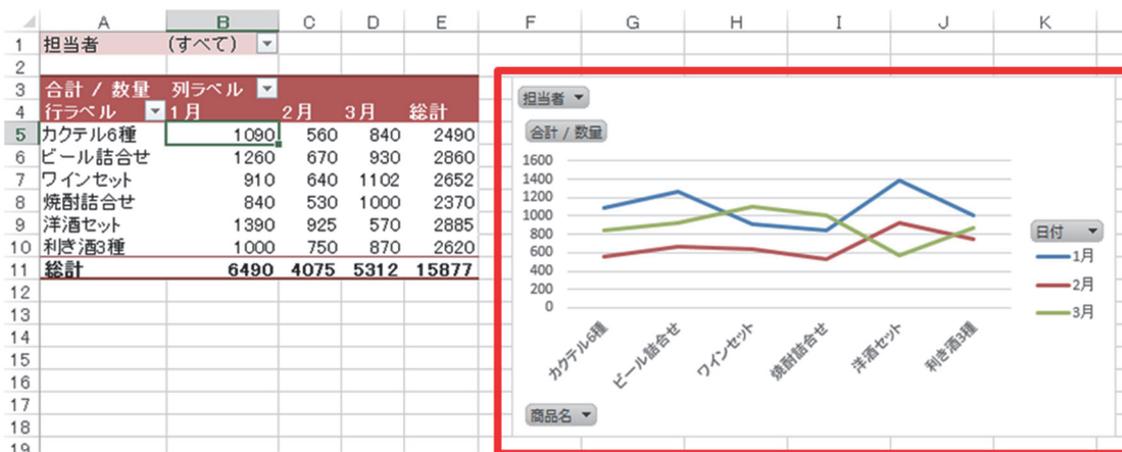
## ▶ ピボットグラフの作成

ピボットグラフは、以下の手順で作成します。

### ①ピボットテーブル内のセルを選択し、[ピボットグラフ] を選択



### ②使用したいグラフを選択する（下例ではフィルターも有効にしています）



### ③ [ピボットグラフツール] の [デザイン] タブを活用して見栄え良く編集する



元のテーブルに情報を追加しても、ピボット側では自動で再集計されません。テーブルに情報を追加したり削除したりした場合は、「更新」をしましょう。

### テーブル側に情報を追加する。

104	101	04月01日	ビール詰め合わせ	4,200	80	336,000	太田
-----	-----	--------	----------	-------	----	---------	----



「4月」の列は増えない。

1	A	B	C	D	E
1	担当者	(すべて)			
2					
3	合計 / 数量	列ラベル			
4	行ラベル	1月	2月	3月	総計
5	カクテル6種	1090	560	840	2490
6	ビール詰め合せ	1260	670	930	2860
7	ワインセット	910	640	1102	2652
8	焼酎詰め合せ	840	530	1000	2370
9	洋酒セット	1390	925	570	2885
10	利き酒3種	1000	750	870	2620
11	総計	6490	4075	5312	15877



「4月」の列が追加される。

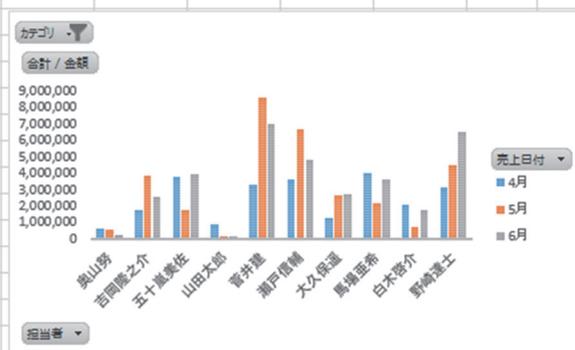
1	A	B	C	D	E	F
1	担当者	(すべて)				
2						
3	合計 / 数量	列ラベル				
4	行ラベル	1月	2月	3月	4月	総計
5	カクテル6種	1090	560	840	80	2490
6	ビール詰め合せ	1260	670	930	80	2940
7	ワインセット	910	640	1102		2652
8	焼酎詰め合せ	840	530	1000		2370
9	洋酒セット	1390	925	570		2885
10	利き酒3種	1000	750	870		2620
11	総計	6490	4075	5312	80	15957

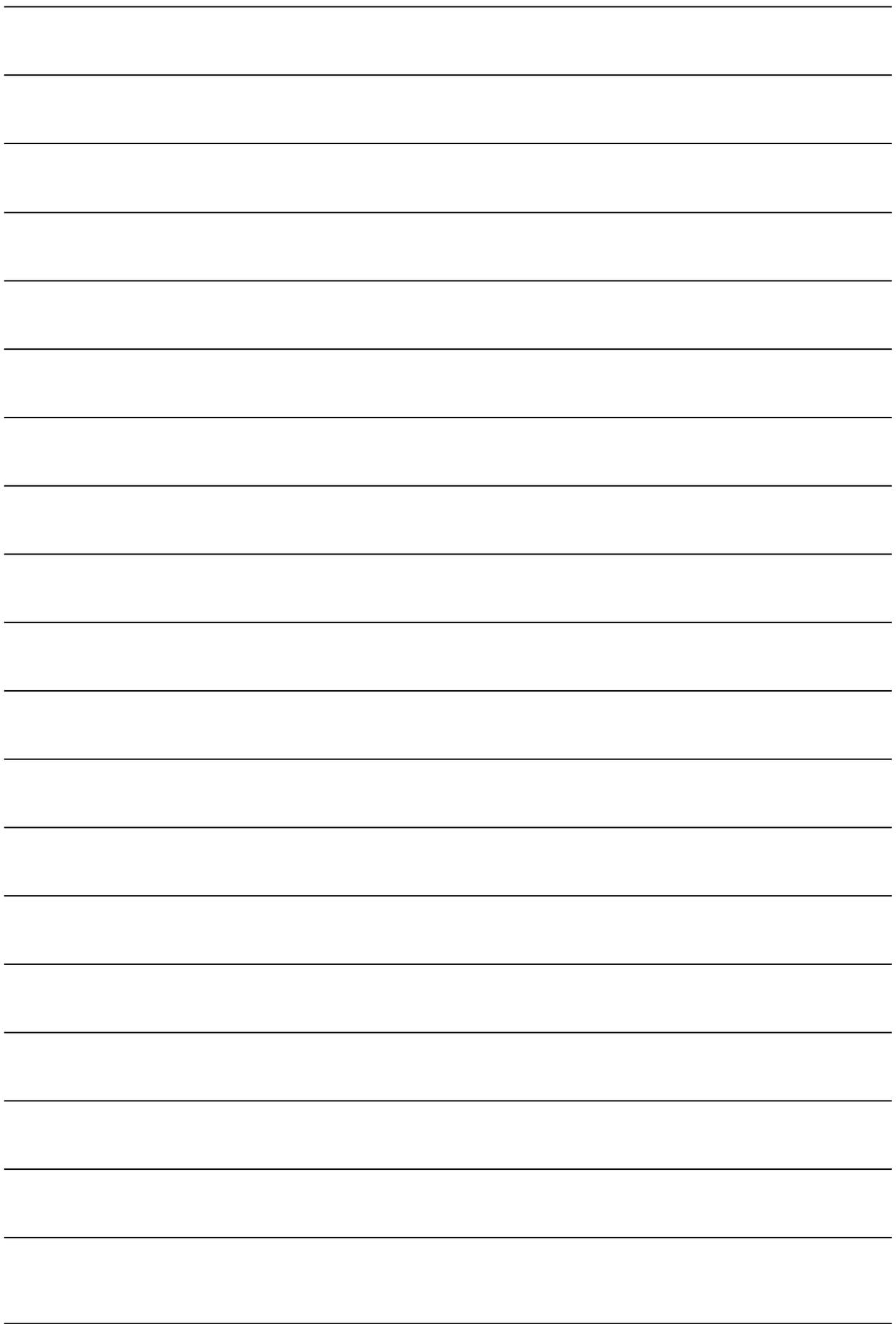
## WORK

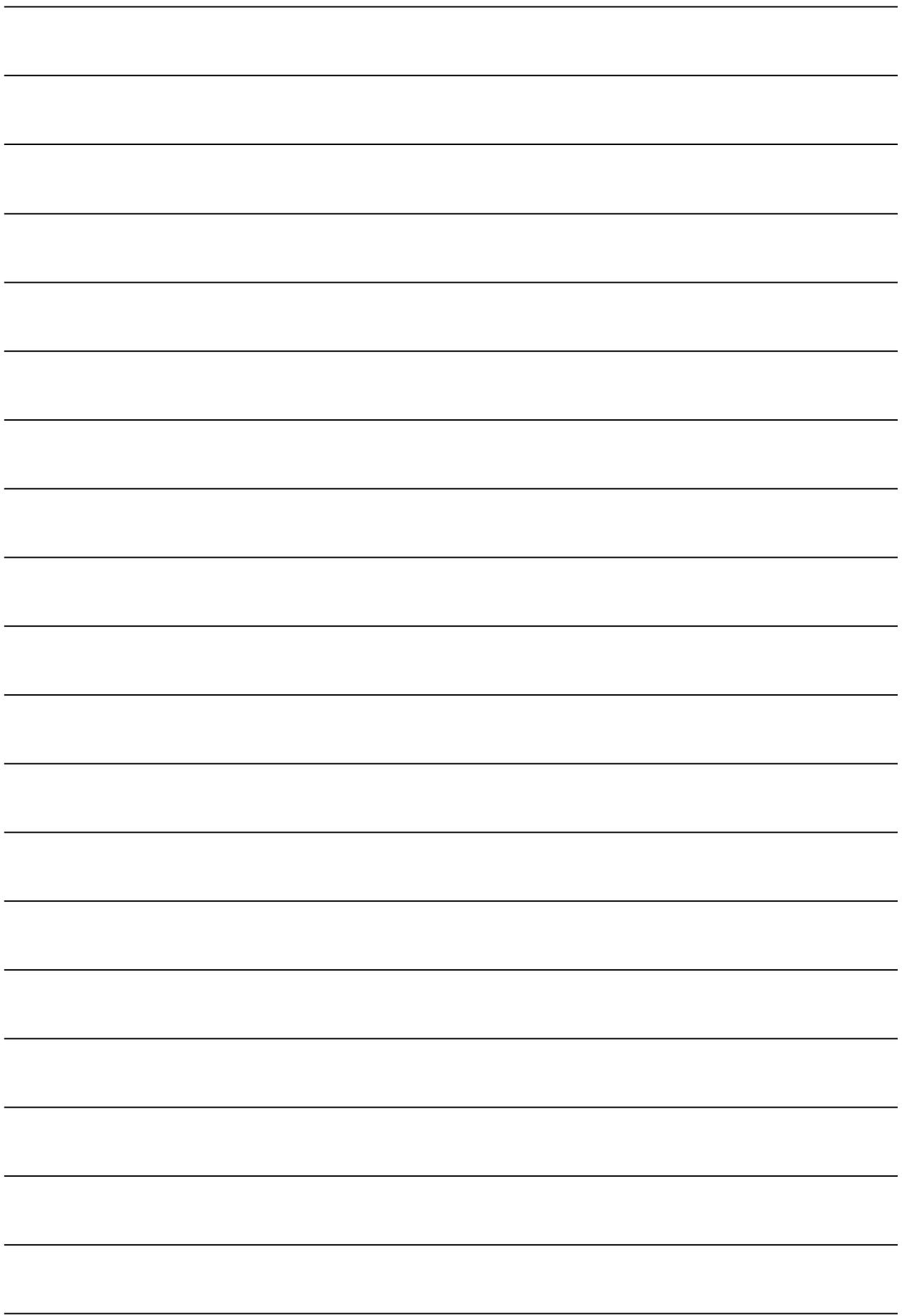
使用データ「2012年度売上実績」をもとにして、あなたが「何かを判断するのに有効」と考える、見栄えの良いピボットテーブルとピボットグラフを作成してみましょう。

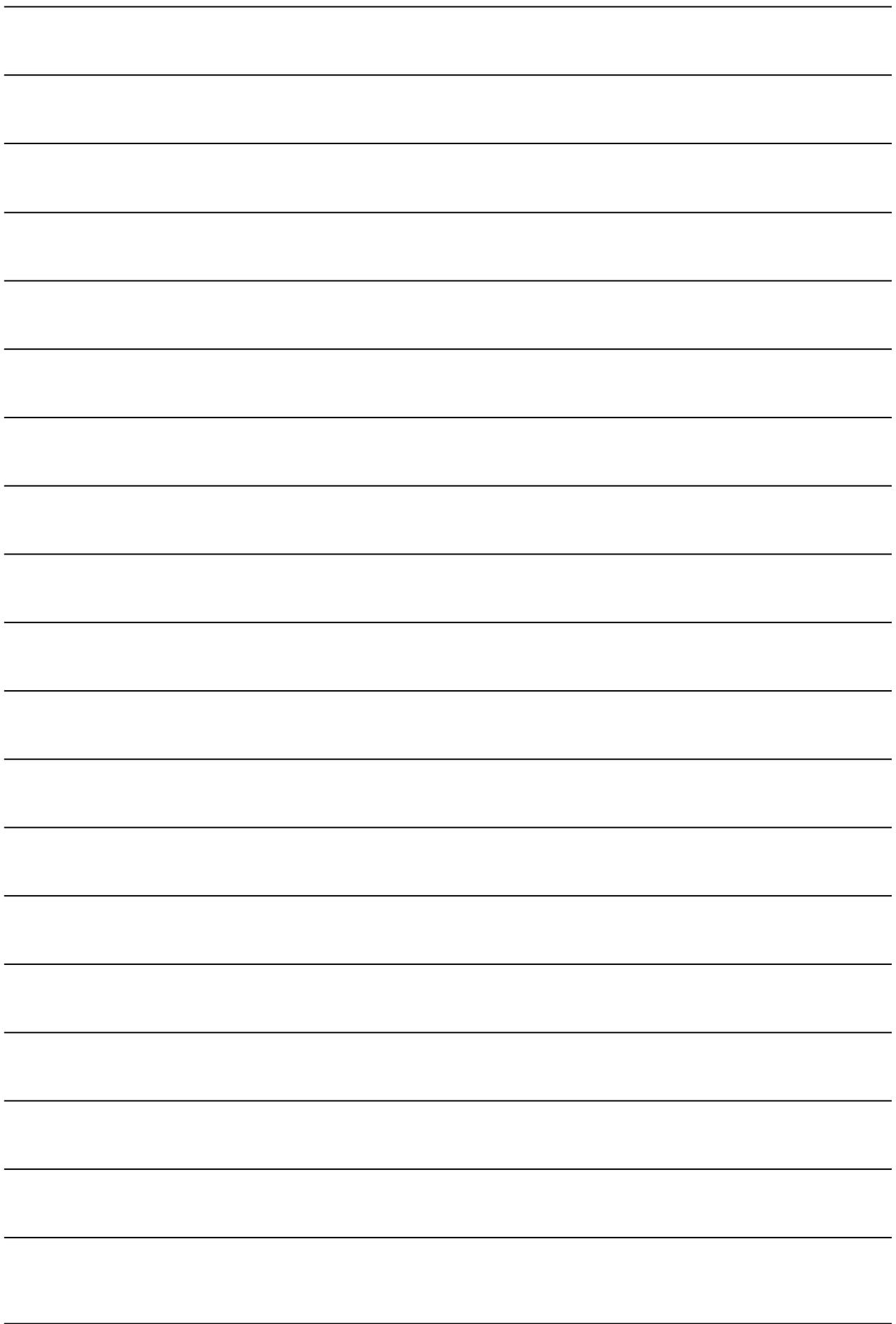
### 作成例：カテゴリごと、誰が、いつ、いくらかの売上かを判断する（誰が「エース」か、分かりますか？）

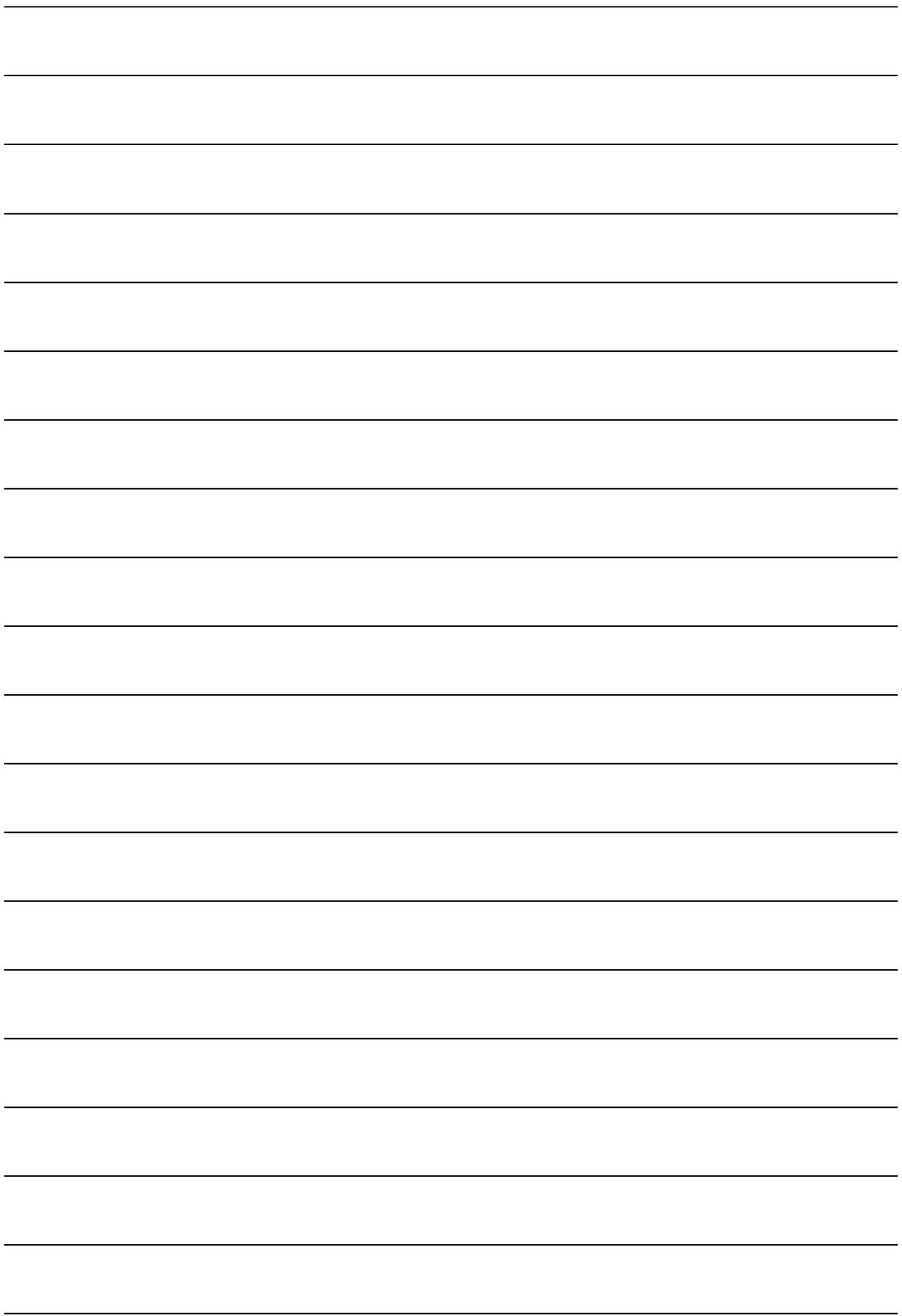
1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1													
2	カテゴリ	応接・受付											
3													
4	合計 / 金額	列ラベル											
5	行ラベル	4月	5月	6月	総計								
6	奥山努	651,000	576,400	215,600	1,443,000								
7	吉岡隆之介	1,795,400	3,883,700	2,574,600	8,253,700								
8	五十嵐美佐	3,800,300	1,751,200	3,969,100	9,520,600								
9	山田太郎	861,000	149,500	189,000	1,199,500								
10	菅井達	3,271,400	8,571,200	7,018,800	18,861,400								
11	瀬戸信輔	3,652,000	6,677,100	4,800,400	15,129,500								
12	大久保進	1,317,400	2,675,900	2,779,300	6,772,600								
13	馬場亜希	4,006,200	2,140,000	3,598,200	9,744,400								
14	白木啓介	2,057,500	715,400	1,811,400	4,584,300								
15	野崎達士	3,116,800	4,534,400	6,508,700	14,159,900								
16	総計	24,529,000	31,674,800	33,465,100	89,668,900								
17													











# Excel 活用

制作・著作：日本マイクロソフト株式会社  
無断使用・複製・転載を禁止します

